

大自然：動植物

奄美群島を形成した陸塊がユーラシア大陸から分離したとき、その陸塊は地上に生息していた多様な動植物種と一緒に連れていきました。他の場所では絶滅してしまった種の中には、環境に適応し進化することによって奄美の島々で生き延びたものもあります。今日、奄美大島に生息する両生類の 90%、哺乳類の 57%、そして爬虫類の 63%がこの島の固有種です。

絶滅が危惧される島のマスコット

アマミノクロウサギ（Amami black rabbit、別称 Ryukyu Rabbit）は奄美大島とその隣の徳之島の固有種です。耳が短く毛皮が黒いこのウサギは、巣穴を掘るための力強い爪を持っています。アマミノクロウサギは国の特別天然記念物に指定されており、環境省の絶滅危惧種のリストに掲載されています。しかし、近年の保護活動により、個体数は許容下限水準まで増加しています。日中この夜行性草食動物の存在を示すのは、（捕食者がいないためウサギたちがより安全と感じる）道端に見られる小さな楕円形のフンと、かじった跡のある地面近くに茂る葉っぱのみです。

他の代表的な奄美大島の固有種には、ルリカケス（*Garrulus lidashi*）、アマミトゲネズミ（*Tokudaia osimensis*）、そして最近文化財に指定されたカラフルなアマミイシカワガエル（*Odorrana splendida*）などがいます。

温帯・熱帯・亜熱帯の種が混在する奄美大島の植物も、動物にとらず多様です。広葉樹の原生林が山々を覆い、沿岸部には豊かな植生が広がります。また、この島にはいたるところに生えているソテツと希少なモダマ（*Entada tonkinensis*）という最大 1 メートル近くまで成長する太く長いマメ科のツル性植物の両方も生育しています。